

教科名		地 図	教科書調査報告
発行者名		東京書籍	帝国書院
調査の観点			
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 各地図や資料が系統的な配列になっており、地図の仕組みや活用の仕方が身に付く作業ページがある。 地図記号、方位等の基本的な地図の読み方が説明されている。 二次元コードでアクセスできるコンテンツが多数あり、地形が分かるドローン地図が掲載され、基礎・基本となる知識を身に付けやすい構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業や伝統文化に親しむことができるように、農産物や工業製品、伝統工芸品などをイラストで掲載している。 地図帳の使い方として、記号の説明や索引の使い方、縮尺と距離の求め方の説明が掲載されている。 日本の地方別のページでは、該当の地域の位置を示す記載があり、土地利用と高低の説明や、方角を示す方位磁針のイラスト、縮尺の目盛が表示されている。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「空からまちを見てみよう」では、「地上から見たまちの様子」、「ななめ上から見たまちの様子」、「真上から見たまちの様子」、「真上から見たまちから地図をつくる」と段階を踏んでおり、課題解決のプロセスを踏まえ、地図の意義やよさが視覚的に理解できるようにしている。 「地図はどうして北が上？」や問いと作業のコーナー「ホップ ステップ マップでジャンプ」が掲載されクイズや作業に取り組むことで、問いをもち学習をすることができ、思考力・判断力・表現力等の育成につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のまわりの防災マップの作り方の具体例を示し、自分は何ができるかを考えることができるような構成となっている。 写真と地図を比較・関連させながら学習を行えるような構成であるとともに、地図に登場人物を掲載し、吹き出しが多数のページに記載されており、児童が思考するきっかけづくりとなる工夫がなされている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の自然災害」が見開き3ページで、資料が充実している。また、ハザードマップもあり、災害への備えの重要性を伝えている。 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサル視点から、地名の表記に配慮がされていたり、漢字に振り仮名のルビがふってあったりして、児童に理解しやすい、表記の工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ページの二次元コードを読み取ることにより、地形、土地利用の様子、市町村、交通の様子、主な農林水産物、伝統文化・先人等について、都道府県ごとの情報を確認できるようになっている。 レイアウトが統一されていたり、文字のフォントや大きさが配慮されていたりして、ユニバーサルデザインが取り入れられている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標(SDGs)について、巻末の索引に掲載し、SDGsの意味を児童にも分かるよう具体的に説明している。 日本の特色ある料理や雑煮をテーマにした地図があり、地域に根ざした食文化を学ぶことができる。 世界地図の下部に民族衣装を着た児童のイラストがあり、外国の文化への興味を促す構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標(SDGs)のページがあり、世界の課題や各地の取組が紹介されている。 日本の特色の現状や食料問題など関連する事項を参照できるよう工夫されている。 防災の取組や防災マップ作り、日本の発電、日本の食料問題と世界の食料問題についての記載がある。
B 使用上の便宜について	(1) 児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 地形、気候、歴史、伝統文化などの多様な主題図を掲載している。また、大きく表現され、読み取りやすく、学習のねらいに即して児童が学習を進めることができるような構成になっている。 振り仮名が付いているなど児童に理解しやすい表記の工夫がなされ、個に応じて学習していくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地図マスターへの道」として、児童が地図帳を活用することにより主体的に解決できる課題が提示されている。 3年生向けの地図や4年生以上が使用する地図が準備され、発達段階に配慮した地図表現・配列になっている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 多摩市立小学校が校外学習で行くことの多い東京都心、鎌倉の地図を二次元コードによるコンテンツに掲載しており、校外学習の事前・事後学習に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関する資料が複数掲載されている。また、土地の高さによる色分けがされており、地形的に特徴のある多摩市についても使用しやすいものとなっている。